

	環境問題	学習日	月	日	名前：
--	------	-----	---	---	-----

要点ノート p 88～

1. 風の流れ

風 = (1) ところから (2) ところに流れる

→ 熱や水蒸気を運ぶ

もし、これがなかったら

これによって大気の大循環が起こる。

一方、地球は自転している。 → (3) が働く  
 これによって、赤道付近で (4)、中緯度で (5)、  
 高緯度で (6) が発生する。  
 ※中緯度付近の上空では偏西風が非常に強い。これを (7) という

2. 季節的な降水量の変化

(北半球の夏)

太陽は北回帰線付近を通る

→ 熱帯低圧帯は北回帰線付近に移動、大気の循環そのものが北にずれる

北極付近では (8) となる。気温が上がるため、極高圧帯は小さくなる  
 この時、南極付近は (9) となる。気温が下がるため、極高圧帯は大きくなる

(北半球の冬)

上記の反対のことが起こる

→ 季節によって降水量が違う地域ができる

3. 海洋と大陸の分布と風

(10) …… 温まりやすく冷めやすい

(11) …… 温まりにくく冷めにくい

暖かいところで上昇気流が起こる。したがって

(12) (13)

陸地が温まるので、上昇気流が起こる。その結果、海洋から陸地に風がふく

(14) (15)

陸地が冷めるので、下降気流が起こる。その結果、陸地から海洋に風がふく

この風の流れが季節ごとに起こる。このかぜを (16) という

4. 海流

沖合に寒流が流れていると、上昇気流が起きづらいので降水量が少なくなる

→ 沿岸部に砂漠ができる

例) 南アメリカ大陸のアタカマ砂漠、アフリカ大陸のナミブ砂漠

(練習問題)

問 1 次の図1は、赤道付近から北極付近における大気大循環の模式図である。図

1にかかわる内容について述べた文として最も適当なものを、下の①～④のう

ちから一つ選べ。  1

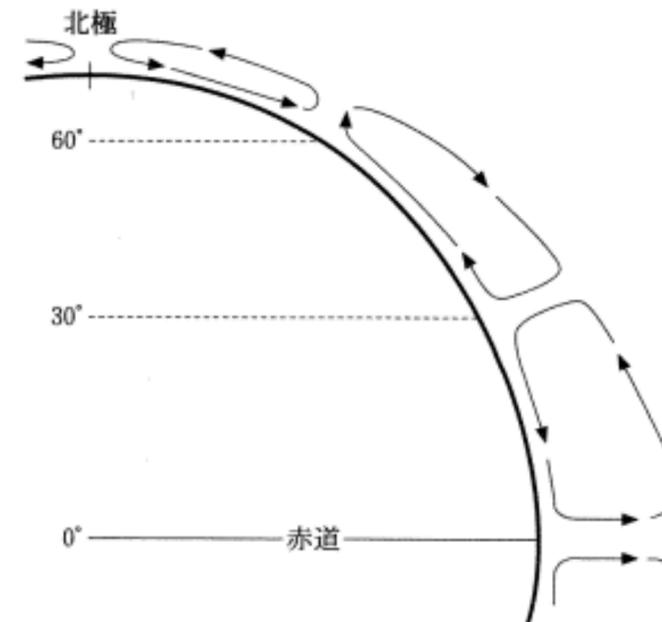


図 1

- ① 北極付近と赤道付近は、いずれも高圧帯となっている。
- ② 高圧帯や低圧帯の南北移動は、降水量の季節変化の一因となっている。
- ③ 北緯 30 度付近から高緯度側へ向かう大気の流れは、極東風とよばれる。
- ④ 北緯 30 度付近では下降気流が卓越し、湿潤な気候をもたらしている。